



2021-2022年度 RI テーマ

SERVE TO CHANGE LIVES
(奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために)

会長 シェカール・メータ

2021年 12月 9日発行 会報 第1081号

今週のプログラム

(2021年 12月 9日 第1081回例会)

卓話：クラブの活性化に向けて

担当：簡 仁一 パストガバナー

次週のプログラム

(2021年 12月 16日 第1082回例会)

卓話：京都トレイル

担当：木下 健治 会員

第1080回例会 (2021年 12月2日) の記録

＜会長の時間＞

水島 洋会長

皆さん、こんばんは。米山奨学生アクサさん、ようこそ。

本日は、会長の時間の後に 2021-22 年度年次総会の開催を予定しております。

どうぞよろしくお願ひ致します。

さて本日は、Do-Planning Club 代表 坂田 妙子様を卓話にお迎えしました。お気づきの方もおられるかと思いますが、坂田様は10月28日に卓話をしていただきました地区米山委員会の副委員長で20年にわたりプロテニスコーチとして活躍していらっしゃいます。

坂田さんのホームページを拝見しましたところ、障がい者向けスポーツの理解も深まっている事もあり、坂田さんに是非とも卓話をお願いしたいと考えた次第です。本日は何かとありがとうございます。30分間の短い時間ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

【年次総会】

クラブ細則第3条第1節に基づき公示された理事・役員につき、選挙の結果を記録する。

2023-2024 年度 会長 (会長ノミニー) 藤田 芳浩会員

2022-2023 年度

◆副会長 高尾 修会員

◇クラブ奉仕委員長 藤田 芳浩会員

◇幹事 山本 友亮会員

◆職業奉仕委員長 高尾 修会員

◆会計 柳原 健治会員

◇社会奉仕委員長 松田 親男会員

◇SAA 黒川 彰夫会員

◆国際奉仕委員長 水本 徹会員

◇青少年奉仕委員長 木下 健治会員

*上記 9 名に山田 克子会長・藤田 芳浩会長エレクト・水島 洋直前会長 3 名を加えた 12 名

(12 議席) を 2022-2023 年度理事会メンバーとする。

<本日のビジター>地区米山副委員長 坂田 妙子様（池田くれは RC）
 岸 俊介様（障がい者立位テニス日本代表）ZOOM 参加
 2021 学年度米山奨学生 アクサ メイリアナ インタニさん

<出席報告> 木下 健治 SAA 補助
 会員数（内出席免除会員 1 名） 17 名
 本日の出席者数 11 名
 （内出席免除会員 1 名）
 （名誉会員 0 名）
 本日の出席率 64.71 %
 11 月のホームクラブ出席率 71.88 %

<ロータリーソング> 全会員
 ♪国歌 君が代 ♪
 ♪奉仕の理想 ♪
 <本日の演奏曲目> 近藤 美里さん
 1. Chestnuts Roasting On An Open Fire
 2. そりすべり
 3. O Holly Night

<12月のお誕生祝> 西本詩子会員 1 日



藤田芳浩会員 8 日



木下健治会員 23 日



山田克子会員 29 日



村田純子会員 9月 20 日



<幹事報告>

山本 友亮 幹事

- 地区大会は 12 月 3 日（金）午後 1 時から開催されます。
 過日パンフレットデータ及び視聴方法・パスワードをグループメールにて
 配信致しておりますので、URL もしくは QR コードからご視聴下さい。
 地区ホームページからもご視聴頂けます。
- RI 日本事務局より 12 月の RI レートは \$ = ¥114 と連絡がありました。
 上半期の特別寄付は年内に 12 月 23 日例会までの受託金を送金致します。
- 本日例会終了後、奥の席で理事会を開催致しますので、理事・役員の皆様は
 ご出席下さい。

<12月2日 理事会議事録>

山本 友亮 幹事

① ガバナー補佐選出について	現在までの動向の説明（第2弾） 西川直前ガバナー補佐からの連絡で、3クラブX5グループでのガバナー補佐選出案には現在15クラブ中11クラブが賛成。 案：IM第2組15クラブを3クラブずつの5グループに分け ガバナー補佐選出は5グループの輪番制とする。
② クリスマス例会について	現在のところ12月23日にてX'mas例会をル・ジャルダンにて開催する。 本日のゲストスピーカー坂田妙子様の歌と米山奨学生アクサさんによるギター生演奏がイベントとして追加。 また、果物や野菜などのお土産が全会員とゲスト全員に予算3,000円/名まで進呈する。 (発注は木下健治会員に担当していただく。)
③ 新年例会について	コロナ状況によるが1月6日ル・ジャルダンにて開催予定。
④ 事務局の賞与の承認について	例年通りの金額にて支給する。
⑤ 12月3日地区大会について	12月3日の地区大会は全員出席扱いとする。
⑥ 水島年度上半期を振り返って	パストガバナーの卓話や地区の卓話を入れていただき大変助かっており、会報作成も事務局にお願いしているので会報の仕上がりもきれいで助かっております。 水島会長が頑張っておられる姿が素晴らしいし、運営方法も素晴らしいとのご意見が出ました。



坂田 妙子様



岸 俊介様



水島会長

Smile Everyone Smile♪♪♪

<SAA報告>

木下 健治 SAA補助

※スマイルボックス

水島会員 坂田さん、本日はよろしくお願ひします。
村田会員 お久しぶりです。

※ラオス基金

黒川会員 ラオスに行こう！！

※ロータリー財団

高尾会員・相原会員 コメントなし

※米山記念奨学会

藤田会員 本日、坂田様 卓話宜しくお願ひ致します。
高尾会員 坂田さん、本日の卓話 よろしくお願ひします。
木下会員 坂田様 ようこそ！
黒川会員 朝夕すっかり冬（？）
相原会員 コメントなし

※メイプル基金

山本(友)会員 坂田さん、本日はありがとうございます。
水本会員 いよいよ師走！！
黒川会員 私もテニスやりたい！！
村田会員 久し振りに夜運転しました。こわかった～！

<卓話>

『テニスコーチとしての恩送り』

坂田 妙子様

今日は、私のテニスコーチとしての経験を通して、「恩送り」についてお話しさせていただきます。私が、プロテニスプレイヤーとして活動していたのは、今から 20 年前になります。主な戦歴としては全日本選手権 2 回出場、全国レディース大阪代表に選抜され、全国準優勝を勝ちとりました。そして 2000 年に自ら、テニスのイベント・企画団体の Do-planning club を立ち上げ、団体代表兼フリーヘッドコーチとしてレッスンを始めました。2003 年には生徒数は約 95 名に増え、アシスタントコーチ 2 名に加わってもらい、順調にレッスンを行っておりました。まさに順風満帆。自分でも「こんなに順調でいいのか？」と思うくらいでした。

しかし、そんな最中、同じ業界の関西トップ企業から圧力をかけられるという大きな壁に阻まれました。その圧力により、テニスコートを借りる事ができない状況が続き、レッスンができなくなりました。関西のトップ企業が、私のような、ちっぽけな存在を相手に「出る杭を引っこ抜く」ような圧力をかけるのかと、不合理さを問う想いと、大きな力を前に抗えない自分の無力さに心が折れるような想いで打ちひしがれました。アシスタントコーチ 2 名も圧力に耐えられず、私のもとを去り、私の周りには誰もいなくなりました。

しかし、自分の置かれた状況から逃げず向き合ううちに、大企業から目をつけられるとは、自分もなかなか大したものじゃないか。これは、光栄な事なのかもしれないと思えるようになりました。そして、このような苦境も、自分の成長過程において感謝すべき、ありがたい経験だと捉えられるよう私の心は変化していきました。

そんなある日、私の生徒のひとりが、「メンバーを7名集めたから、レッスンをしてほしい」と連絡をくれたのです。そして、私のコーチ業は、この7名の生徒と共に再スタートすることができました。この時の私の生徒たちへの感謝は、今日に至るまで一瞬たりとも忘れる事ではなく、私の心中に深く刻まれています。当時、私は再スタートを助けてくれた7名の生徒に心から感謝をすると共に、この7名を必ず上達させ強くする事を心に誓い、その為にはどうしたらよいかを必死に考えました。

皆に同じレッスンを提供していくには、個々の特性を生かすことに特化できず、上達に時間がかかります。そこで、他にはない私独自のレッスンを考えました。それが私が命名した「オートクチュールレッスン」という、生徒一人一人の特徴を活かしたオリジナルのレッスン方法です。既製服ではなく、それぞれの好みや体型を生かし、その人に最もフィットする世界でたった1枚のオーダーメイドの洋服を仕立てるようなイメージでテニスのレッスンを行っています。この私独自のオートクチュールレッスンでは、皆、それぞれの個性に応じたプロセスで学ぶことができ、とても分かりやすいと共感してくださる方が多く、沢山の方から支持していただき現在に至ります。

私は、一人一人の個性を尊重することは、テニスレッスンだけでなく、日々の生活や自分を取り巻く人間関係すべてにおいて大切だと感じており、生徒にもそれを必ず伝えるようにしています。テニスを通じ多様性を認め合うことは、一人一人の個性を認めあう社会を作ることに繋がる一つの恩送りになると感じています。私が、レッスンを通じ、いつも生徒に伝え続けていることは、「協力し、諦めない心を持つこと。互いの個性を尊重すること。ダブルスにおいてはペアとの友情、ペアへの心遣い、気遣いを1番に考える事。」です。その心の持ち方を、私が教えた生徒たちが子供たちに伝え、孫に伝えることで、テニス界の未来、更に言えば、スポーツ界、社会の未来へと繋がっていくと思います。

また、私は現在、耳や身体に障がいがある方のテニスもサポートしています。2013年 のデフリンピック（聴覚障がい者のオリンピック）代表に私の生徒が抜擢され、他の代表メンバーの指導にも携わったことがきっかけで、障がいのあるプレイヤーを応援したいと心から思うようになりました。以来、障がいがある方が、テニスを通じて生きる喜びを得ること、頑張ろうとする気持ちの支えに少しでも役に立てればと思い、交流試合やイベントを企画し、今後もその活動に力を入れていく計画をしています。障害の有無に関わらず、テニスを通じて対話し、多様性を認めあう社会をつくる。これも一つの恩送りだと感じております。

冒頭でお話ししましたとおり、私のテニスコーチとしての恩送りの心は、まずは、自分の生徒への感謝から始まりました。そして、その生徒への恩送りとして、生徒個々の実力を伸ばす最適なレッスンは何かを考え、個性を重視するレッスンに重きを置いたことにより、私自身、個々の相互尊重の大切さに気づくことができました。テニスの技術だけでなく、多様性や個性の尊重を多くの生徒と共有することは、豊かな人間形成へ繋がり、輪となり、社会への恩送りの一つとなると信じております。そして、今後もテニスコーチとして、社会への恩送りを続けていきたいと思っております。



<卓話>

『テニスで目指す Diversity and Inclusion』

岸 俊介様

